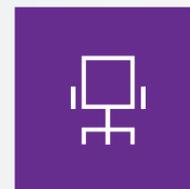




個別のワークスタイルを把握し、適材適所のデバイス提供 働き方改革を実現するデルの7つのメソッド

DELL EMC





企業のお客様に、画一的な PC を提供していた時代は過去のことです。従業員が時間や場所を選ばずに働くことを選択する時代に入っています。だからこそ、働き方に見合ったデバイスとテクノロジーの提供が重要となるのです。デルでは全世界のお客様と直接対話する中で、働き方は大きく7つに分類されることが分かりました。

デルはそれぞれの生産性を最大化すべく、ハードウェア、周辺機器、サービスおよびセキュリティの最適な組み合わせをご提案します。

社内移動型社員



会議から会議へと社内で動き回ることが多いため、プレゼンテーションがしやすい14インチの軽量ノート PC とどこでも共有・接続ができる周辺機器がおすすめです。

P2

デスク型社員



主な時間をデスクで作業し、複数のアプリケーションを処理することが多いため、画面が大きく負荷の高い作業ができるデスクトップ PC やモニタが重要です。

P3 ~ P6

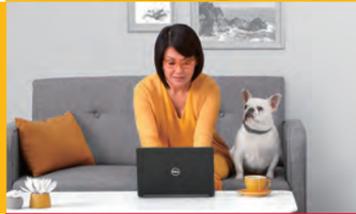
外勤型社員



モビリティが最も重要視されるため、タブレットモード・ノート PC モードへの切り替え可能な 2 in 1 モデル (12インチがおすすめです。外出先でのスムーズな業務をサポートできる周辺機器があればさらに生産性が向上します。

P7 ~ P10

在宅型社員



自宅からでも、軽量のノート PC とモニタ・周辺機器を用いれば、オフィスと遜色ない仕事環境を実現可能。また、ビデオ会議などコミュニケーションツールや周辺機器が必須となります。

P11 ~ P14

クリエイティブ型社員



高精度なコンテンツをどこでも快適に制作するには、最先端の技術とパフォーマンス、そしてスタイリッシュなデザインが求められます。そのためモバイル型のワークステーションをおすすめします。

P15 ~ P18

エンジニア型社員



CAD / CAM など大量のデータを扱うため、パワフルかつ拡張性の高いデバイスが不可欠。その期待に応えるためには、タワー型ワークステーションが最適です。

P19 ~ P22

現場作業型社員



耐衝撃性をはじめ防塵、防滴、高温多湿など、過酷な環境で実作業を行うことを想定し、あらゆる環境に対応できる堅牢性の高い専用のノート PC があれば安心です。

P23 ~ P26

社内移動型社員

働く人の **72%** は持ち運びに便利なテクノロジーを用いたコラボレーションが増加していると感じています。



社内移動型社員は 50% 以上の時間を自身のデスク以外で過ごし、ミーティングからミーティングへ、または複数のロケーション間を移動しながら働きます。

デルだからお客様に提供できること

テクノロジーの購入には、IT 部門だけでなく、部門での購買といったケースもあり、HR や総務、ファシリティ部門が大きな影響を及ぼすようになっています。デルは様々な部門からの多様なリクエストにたいして、適切なご提案が可能です。

デルは 1,000 社にも及ぶお客様との対話を通じ、さらにリサーチを行うことで社内移動型社員のニーズを把握しています。

デスクからミーティングルームへのシームレスな移動を支援するため、どこにいてもプレゼンテーション、共有、接続に必要なツールを提供します。

人材の獲得とその維持
満足している社員はより生産的で、これはテクノロジーに因るところが大きいです。

家からであっても、より軽く持ち運びやすいノート PC とアクセサリを用いれば、モビリティが向上し、更なる柔軟性が生まれます。

コラボレーションのコネクティビティ
チーム横断や仮想チームでのコラボレーションは飛躍的に増加しており、常時接続はビジネスにおいて非常にクリティカルです。

デスクにいても移動先でも最適な作業環境を実現するため、デルドックとデルモニターを用いて究極のデスクトップ生産性を提供します。

耐久性
より専門性の高い職務に応えるには、耐久性の高いデバイスと長時間のバッテリーライフを用いることで実現。

パソコン製品



New Latitude 7480 ノートパソコン
汎用性を重視したデザイン。卓越したユーザーエクスペリエンス。

www.dell.com/jp/business/p/latitude-14-7480-laptop/pd



New Latitude 5285 2-in-1
最新の安全性。タブレットの柔軟性とノートパソコンのパフォーマンスを併せ持つセキュアな 2-in-1

www.dell.com/jp/business/p/latitude-12-5285-2-in-1-laptop/pd

モニター & 周辺機器



Dell Pro ステレオヘッドセット UC350 - Skype for Business

クリアなサウンドに加え、快適さ、便利さを提供。極めてクリアなサウンドに最適化。

ソフトウェア & サービス

5年プロサポートプラス

24時間 365日の電話サポート対応、アクシデンタルダメージ (まさかのときに安心保証)、HDD 返却不要サービスにより交換後の故障 HDD も保持できる、充実のパッケージでビジネスをサポート。

セキュリティ

Dell Data Protection ソリューション

包括的な暗号化機能、高度な認証機能、最先端のマルウェア防御機能を備えた Dell Data Protection (DDP) ソリューションで、大切なデータを保護。

Windows 10 への移行

Windows 10 移行コンサルティングおよびデプロイメント

エンドユーザを取り巻く環境はめまぐるしく変化し、多くの問題が発生しています。最新 OS への移行、セキュリティの確保、新しいワークスタイルを実現するためのインテグレーションの適用など、数多くの課題が存在します。

はじめの1歩から... デルが Windows 10 移行のご支援をいたします! www.dell.com/ja-jp/work/learn/os-migration-consulting

デスク型社員

働く人の **74%** は
作業中心の業務には
デスクトップを使い続けます。



デスク型社員は、オフィスで 50%以上の時間を
自身のデスクで過ごしています。

デルだからお客様に提供できること

テクノロジーの購入には、IT 部門だけでなく、部門での購買といったケースもあり、HR や総務、ファシリティ部門が大きな影響を及ぼすようになっています。デルは様々な部門からの多様なリクエストにたいして、適切なご提案が可能です。

デスク型の社員がより快適に、効率よく働ける支援ができます。それには、デスクでも会議室でも柔軟なコンピューティングを実現するデルのソリューションが役立つからです。

スピードとパフォーマンスの両立

全ての特長を兼ね備えたデスクトップ PC とノートブック PC ならマルチタスク処理と生産性の最大化を実現できます。

デルは 1,000 社にも及ぶお客様との対話を通じ、さらにリサーチを行うことでデスク型社員のニーズを把握しています。

人材の獲得とその維持

満足している社員はより生産的で、これはテクノロジーに因るところが大きいことが分かっています。

シェアリングの改善

会議室を、セキュアかつ生産的な作業スペースへと革新しましょう。インテル® Unite™ を搭載した 7000 シリーズのマイクロ PC を使えばあっという間に可能です。

スペースの制約とインフラストラクチャ

- OptiPlex AIO (All-in-One) または、OptiPlex Micro シリーズ
- OptiPlex マイクロ向けのマウントソリューションを用い、作業スペースの効率化に貢献
- オールインワン向けスタンドオプションは、限られたスペースを最大限、有効活用できるスマートなスタンドオプションです。

パソコン製品



New OptiPlex 7050 Micro

1.28 リットルのコンパクトボディは、汎用性を重視したデザイン。卓越したユーザーエクスペリエンスを提供します。

www.dell.com/jp/business/p/optiplex-7050-micro/pd



OptiPlex 5250 オールインワン

高度な管理機能とセキュリティ機能を備えたミッドレンジの 21.5 インチビジネス向けオールインワンデスクトップ。

www.dell.com/jp/business/p/optiplex-5250-aio/pd

モニター & 周辺機器



Dell デジタルハイエンドシリーズ U2717D 27 インチワイドフレームレスモニター

どこまでも広がる美しさ。革新的な視覚体験。



OptiPlex マイクロシリーズ All-In-One スタンド

MFS18 快適な作業スペースを実現するマイクロシリーズの All-In-One スタンド MFS18。



デル製 Premier ワイヤレスキーボードおよびマウス KM717

毎日のパフォーマンスと生産性が向上します。ワイヤレス接続を自由に選択していただけます。

ソフトウェア & サービス

5年プロサポートプラス

24時間 365日の電話サポート対応、アクシデンタルダメージ（まさかのときに安心保証）、HDD 返却不要サービスにより交換後の故障 HDD も保持できる、充実のパッケージでビジネスをサポート。

セキュリティ

Dell Data Protection ソリューション

包括的な暗号化機能、高度な認証機能、最先端のマルウェア防御機能を備えた Dell Data Protection (DDP) ソリューションで、大切なデータを保護。

Windows 10 への移行

Windows 10 移行コンサルティングおよびデプロイメント

エンドユーザーを取り巻く環境はめまぐるしく変化し、多くの問題が発生しています。最新 OS への移行、セキュリティの確保、新しいワークスタイルを実現するためのインテグレーションの適用など、数多くの課題が存在します。

はじめの 1 歩から … デルが Windows 10 移行のご支援をいたします！ www.dell.com/ja-jp/work/learn/os-migration-consulting



株式会社 パートナーエージェント

AI 搭載のマルウェア対策ソフトウェアで 全国約 800 台の PC セキュリティを守る

婚活サービス業界 No.1 の成婚率を誇るパートナーエージェントは、未知のマルウェアに対する防御を強化すべく、パターンファイルに頼らない次世代セキュリティ製品「Dell Data Protection | Threat Defense」を導入した。

ビジネス課題

婚活サービスを提供しているパートナーエージェントにとって会員データの保護は最重要・最優先のビジネス課題である。会員データの漏えいを抑止する確実な管理体制が必要であるが、昨今の高度に偽装されたランサムウェアなどによる攻撃に対しては、パターンファイルベースの従来型アンチマルウェアソフトでは防御が難しい状況となってきた。

ソリューション

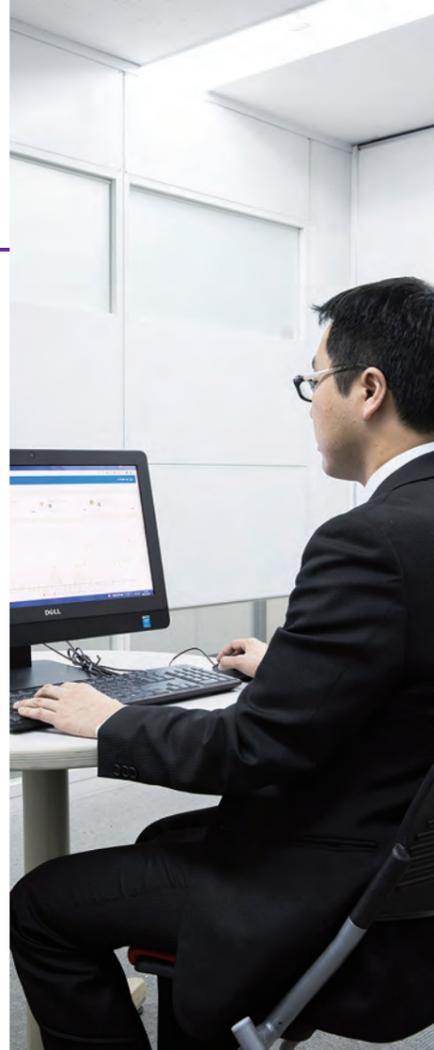
- クライアントソリューション
- ・ Dell Data Protection | Threat Defense
- ・ Dell ProSupport Plus

導入効果

- Dell Data Protection | Threat Defense を導入してから半年以上にわたる実績として、マルウェアの侵入を 100% 防御
- すべての PC の問い合わせ窓口をデル・プロサポートプラスに一元化し、トラブル発生時の問題解決を迅速化
- 導入を検討した従来型マルウェア対策ソフトの場合には、移行作業に 2~3 カ月が必要であったが、Dell Data Protection | Threat Defense では 1 週間で全 PC への導入が完了。

成婚というゴールに向けて伴走する専任コンシェルジュの存在、豊富な実績データを基にした婚活設計など、「高い成婚率の実現」を婚活サービス企業としての価値と考えるパートナーエージェントにとって、絶対に守らなければならないのが会員データだ。外部から完全に隔離された仮想化環境で厳重な管理を行っているが、一方で懸念されたのが全国各地の店舗で運用している約 800 台の PC である。世の中では標的型攻撃やランサムウェアによる被害が拡大しており、パターンファイルを利用した従来型のマルウェア対策ソフトウェアによる対策はもはや限界と考えられた。

そうした中でデルより提案されたのが、機械学習をベースとした AI を用いた検知手法で未知のマルウェアも防御する Dell Data Protection | Threat Defense (以下、DDP | TD) である。既存のマルウェア対策ソフトウェアからの切り替え時に「空白期間」を生じさせないスムーズかつ短期間の移行をサポートし、これまでの実績として 100% の精度でマルウェアの侵入を防御している。



防御率

100%

導入してから半年にわたる
実績としてマルウェアの
侵入をすべて防御



1/8 短縮

従来製品では 2 カ月以上
かかると思われた移行作業
を 1 週間で完了



「成婚率」にこだわった 新世代の婚活サービスを提供

結婚は人生の大きなイベントだが、現代社会は結婚しにくい時代と言われている。実際、総務省統計局の調査によると、1970年をピークに婚姻件数は減少し続けている状況だ。一方で国立社会保障・人口問題研究所が行ったアンケート調査では、独身者の約90%が「いずれ結婚するつもり」と回答している。要するに結婚したいという望みを持ちながらも、「この人だ」と思えるパートナーとなかなか出会えないという問題が現代社会に顕在化してきている。

そうした中、「プロフェッショナルとしてゴールまで伴走するエージェント（代理人）」がいた状況は大きく変わるはず」という思いを持って、2006年に創立したのがパートナーエージェントである。もともと、いわゆる婚活サービスを手がける企業はこれまでも数多くあった。それらの既存の婚活サービスとパートナーエージェン

マルウェアをエンドポイントで 検知するケースが増加

婚活サービスを展開していくうえで、大前提の条件となるのが厳重なセキュリティ対策である。パートナーエージェントが保持するさまざまな会員データは究極の個人情報情報といっても過言ではなく、絶対に外部に漏えいさせることがあってはならない。

そこでパートナーエージェントでは、Dell EMC PowerEdge サーバなどをホストサーバとして活用し、会員データを外部から完全に隔離された仮想化環境で管理することで安全性を担保している。ただ、懸念されたのは全国各地の店舗でコンシェルジュが利用しているトータル数百台に及ぶPCのセキュリティだ。同社の情報システム部長のカイン・ミン・スウィ氏は次のように語る。

「会員の皆様をサポートする業務の性質上、それらのPCをインターネットから切り離すことはできません。万が一、不正侵入されたとしてもPCのローカルディスクに会員データは一切保存されていないため情報漏えいなどの問題は起こりませんが、とはいえ近年では標的型攻撃やランサムウェア（身代金要求型ウイルス）など、巧妙化する新種のマルウェアをエンドポイントで検知するケースも増えており、安心できる状態ではありません」

マルウェアの構造や振る舞いから 特徴的な「悪意」を瞬時に分析

上述のような背景から2016年6月、パートナーエージェントはPCのセキュリティを強化する新たなソリューションの検討に入った。まさにそのタイミングでデルから紹介されたのが、DDP | TD である。

「どちらかといえばハードウェアベンダーという印象を持っていたデルからの斬新な提案に驚きました」とミン氏は振り返る。どんな点が画期的だったのだろうか。

現在の一般的なマルウェア対策ソフトウェアは、マルウェアの定義（シグネチャ）を利用したパターンマッチングにより検知する。昨今の膨大な量のマルウェアによりシグネチャの作成が追いつかなくなってきており、シグネチャベースの対策は技術的に限界を迎えている。

ある調査によると、2015年に全世界で確認された新種マルウェア（亜種を含む）は約4億3100万種類に上っており、1日あたり118万近い新種が出現していることになる。この膨大なマルウェアを解析してデータベース化するスピードが追い

つはどこが違うのだろうか。これまでほとんどの婚活サービスは、自社が擁する会員数の多さをアピールしてきた。しかし結婚は、希望条件を満たす人をしてできるだけ多くの母数から探し出し、マッチングすれば実現するというような単純なものではない。一方で、パートナーエージェントは一貫して「成婚率」にこだわり、その向上こそ企業の真の価値として位置づけ、その実績を数字で公開しているのである。

創立以来10年以上にわたって蓄積してきた会員の豊富な実績データを分析・解析し、エリア・年齢別に出会う人数、交際に至る人数、成婚までの期間などを具体的な数値として抽出。これに個別インタビューから得られた情報を重ね合わせることで、その人だけの活動設計を行っているという。

一方でパートナーエージェントが直面していたのが、これまで各PC上で利用してきたマルウェア対策ソフトウェアのライセンス切れという問題である。これまで利用してきたマルウェア対策ソフトウェアをそのライセンス期限までにWindows 10に対応した新しいシステムに切り替えるという課題があった。同社の情報システム部の伊藤聡重氏は次のように話す。

「従来製品のライセンスの期限が迫っており、しかもWindows 10に対応させるためには後継製品にアップグレードする必要があったのですが、その作業は全国各地の店舗に分散している約800台のPCに対して行わなければなりません。しかも旧バージョンの製品をいったんアンインストールして再起動した後、あらためて後継製品をインストールするという手順を踏む必要があり、その“空白期間”にサイバー攻撃を受けた場合に無防備になってしまうリスクもありました」

作業は新旧製品を同時に動作させることができないため、旧製品のアンインストール後に、新製品をインストールする必要があった。この際、セキュリティ上、セキュリティソフトが存在しない空白期間を極力なくすという対応が求められたのである。

付かなくなってきているのだ。そして当然ながら、このタイプのマルウェア対策ソフトウェアは未知のマルウェアにまったく歯が立たない。

これに対して DDP | TD は機械学習をベースとした AI（人工知能）を活用した ATP（高度脅威防御）機能を搭載し、既知のマルウェアを検知するパターンマッチングではなく、AI エージェントによりマルウェアのプログラム構造を静的に解析し、検知する。これにより既知のマルウェアはもとより未知のマルウェアに対しても 99%の検知能力を発揮し、実行を事前に阻止することができるのだ。加えて分析処理も極めて低い CPU 使用率（通常 3～5%）で軽快に動作するため、エンドユーザの業務を妨げることはない。

「当社としてもパターンファイルによるマルウェア対策を今後も続けることに大きな疑問を感じ始めていました。将来に対する安心・安全を確保できる手段を探していた私たちにとって、DDP | TD はまさに待ち望んでいたソリューションでした」と、ミン氏は導入を決定した背景を語る。

従来型のマルウェア対策ソフトウェアと 共存させたインストールも可能

パートナーエージェントが DDP | TD を高く評価したもう1つのポイントが、そのスムーズな移行手順である。

パターンファイルを利用する一般的なマルウェア対策ソフトウェアは Windows の特殊な API を利用するため、2つの製品を同居させることができない。先に述べた「旧製品のアンインストール、再起動、後継製品のインストール」という面倒な手順を踏まなければならなかったのはこのためだ。

その点、異なるアーキテクチャで作られた DDP | TD ならば、従来型のマルウェア対策ソフトウェアと同居させたとしてもまったく問題はない。DDP | TD をインストールして正常に動作していることを確認した後、ライセンス切れなどの任意のタイミングで旧製品をアンインストールすればいい。これによりセキュリティの“空白期間”が生じるのを避けることができる。

さらに DDP | TD はサイレントインストールもサポートしており、全国各地の店舗に分散する PC に対してリモートからバックグラウンドでインストールを実行することができる。実際、この機能は移行に際して絶大な効果を発揮したようだ。仮に既存のマルウェア対策ソフトウェアの後継製品を選択していた場合、まず環境構築およびホワイトリスト設定などの準備作業に1週間程度を要する。繰り返しになるが、そのうえで「旧製品のアンインストール、再起動、後継製品のインストール」という作業を数百台の PC に対して個別に実施しなければならないのだ。

「運用ポリシーでエンドユーザがソフトウェアのインストールを行うことは許可しておらず、この作業は情報システム部のスタッフが各地の店舗に向向いて実施する必要があります。こうしたことからすべての PC の移行を完了するまでは、2～3カ月を費やしたかもしれません」と伊藤氏は語る。

一方、DDP | TD は、クラウド環境から提供するサービスであるためサーバ設定などの準備作業は不要だ。「各 PC へのインストールもスタートアップスクリプトを使ってコマンドを実行するという方法をとったことで、短時間で作業を実施することができ、1週間後にはすべての PC の移行を完了しました」と伊藤氏は語る。

なお話は前後するが、パートナーエージェントでは数年前からライフサイクルに応じて段階的に各店舗の PC を、Dell Latitude や Dell OptiPlex を中心としたデル製品へとリプレースを進めてきた。これによるエンドユーザ環境の統一も、今回の DDP | TD のスムーズな移行に貢献したようだ。

「それ以前はさまざまなベンダーの製品が混在した環境で、PC ごとに問い合わせ窓口が違えば、サポート内容も異なっているという状況でした。仮にその環境下でセキュリティ対策の移行を行っていた場合、エラーが発生した際の対処にもかなりの混乱が生じていたと予想されます。シンプルなデザインや堅牢性が気に入って新しく導入する PC はすべてデル製品にするという基本方針のもと、問い合わせ窓口も Dell ProSupport Plus に一元化された体制だったからこそ、私たちは安心して DDP | TD への移行に踏み切ることができました」と伊藤氏は語る。

マルウェアの侵入を完全に防御し エンドユーザにも快適な操作を提供

2016年9月に全社的な運用を開始して以来、DDP | TD はパートナーエージェントの PC に高い安心・安全を提供している。これについてミン氏は、「導入からすでに半年以上が経ちましたが、現在までセキュリティインシデントはまったく起こっておらず、マルウェアの侵入は完全に防御されています。エンドユーザからも PC が遅くなったといったクレームは入っていません。こうした当たり前のことを着実に実現してくれたことが、DDP | TD の最大の成果と考えています」と評価する。

もともと、セキュリティ対策にここまでやれば安心といったゴールはなく、今後も悪質化・巧妙化の一途をたどるサイバー攻撃の動向やビジネスの変化を見据えながら、タイムリーな施策を打っていく必要がある。

パートナーエージェントでは、会員の成婚率をより一層高めるべく、今後新しいサービスの展開を見据えている。そうした中でも依然とセキュリティの重要性は変わらず、これまでとは観点の違った対策が求められることになるだろう。ミン氏は、「デルには今後も単なるハードウェアベンダーとしてではなく、私たちのビジネスのパートナーとしての立ち位置から、より広範かつ効果的なソリューションを提案していただけたらと思います」と語り、デルのさらなるサポートに期待を寄せている。



株式会社 パートナーエージェント
情報システム部長
カイン・ミン・スウィ氏



株式会社 パートナーエージェント
情報システム部
伊藤 聡重氏

外勤型社員

働く人の **39%** は
仕事で移動中に複数のデバイスを
使用しています。



外勤型社員は 50% 以上をオフィス以外で働き、
社外でのミーティングと移動で過ごします。

デルだからお客様に提供できること

テクノロジーの購入には、IT 部門だけでなく、部門での購買といったケースもあり、HR や総務、ファシリティ部門が大きな影響を及ぼすようになっています。デルは様々な部門からの多様なリクエストにたいして、適切なご提案が可能です。

2-in-1 とデタッチャブルといった最新のモバイル・フォーム・ファクターから薄型軽量のノート PC まで、デルでは外勤型がどのような状況でもどんな場所でも働くための適切なデバイスを提供しています。

新しいモバイルプラットフォームで最適な体験を実現するアクセサリを豊富にそろえています：デルアクティブペン、目的に応じたケースを持つデタッチャブルキーボード、電源アダプター

デルは 1,000 社にも及ぶお客様との対話を通じ、さらにリサーチを行うことで外勤型社員のニーズを把握しています。

快適性
2-in-1 といった軽量デバイスを用いれば持ち運び可能にします。

コラボレーションのコネクティビティ
チーム横断や仮想チームでのコラボレーションは飛躍的に増加しており、常時接続はビジネスにおいて非常にクリティカルです。多機能電源アダプターを使用すれば、長時間持続するバッテリーと追加電源の恩恵を受けることができます。

自律性と独立性
クラウド / VPN 経由で情報にアクセス可能です。

パソコン製品



New Latitude 5285 2-in-1
最新の安全性。タブレットの柔軟性とノートパソコンのパフォーマンスを併せ持つセキュアな 2-in-1。

www.dell.com/jp/business/p/latitude-12-5285-2-in-1-laptop/pd



Latitude 13 7000 シリーズノートパソコン
新時代のビジネスクラス。創造力を刺激するイノベーション。

www.dell.com/jp/business/p/latitude-13-7370-laptop/pd

モニター & 周辺機器



デル製アダプタ - USB-C HDMI / VGA / イーサネット / USB 3.0 (DA200)
複数の用途をこれ 1 台で。ビデオ出力として VGA または HDMI を選択可能。



ハイブリッドアダプタ + 拡張バッテリー USB-C PH45W17-CA
世界初のモジュラー電源で、外出先でも途切れることなく生産性を維持。



Dell Latitude 5285 トラベルキーボード (日本語)
外出先でも生産性をアップ。タブレットモードからノートパソコンモードに簡単に移行。

ソフトウェア & サービス

5年プロサポートプラス

24 時間 365 日の電話サポート対応、アクシデンタルダメージ（まさかのときに安心保証）、HDD 返却不要サービスにより交換後の故障 HDD も保持できる、充実のパッケージでビジネスをサポート。

セキュリティ

Dell Data Protection ソリューション

包括的な暗号化機能、高度な認証機能、最先端のマルウェア防御機能を備えた Dell Data Protection (DDP) ソリューションで、大切なデータを保護。

Windows 10 への移行

Windows 10 移行コンサルティングおよびデプロイメント

エンドユーザを取り巻く環境はめまぐるしく変化し、多くの問題が発生しています。最新 OS への移行、セキュリティの確保、新しいワークスタイルを実現するためのインテグレーションの適用など、数多くの課題が存在します。

はじめの 1 歩から … デルが Windows 10 移行のご支援をいたします！ www.dell.com/ja-jp/work/learn/os-migration-consulting

USEN

株式会社 USEN

PC・1,400 台の一斉リプレイス 軽くて長持ち、充実サポートでデル製品を採用

5年に一度のタイミングで社内の全ノート PC を一斉に刷新する USEN。2016 年 8 月に実施した直近のリプレイスでは、軽量・高性能、充実サポートを決め手にデル製品を選定。合計 1,400 台に及ぶ Dell Latitude 12 7000 シリーズを導入した。

ビジネス課題

社内の全ノート PC を 5 年に一度のタイミングでリプレイスしている USEN では、更改時期を迎える 1 年前から次期ノート PC の機種選定作業をスタート。従来の PC で課題となっていた「重くて持ち運びが不便」「バッテリー駆動時間が短い」といった問題の解消を目指すとともに、今後 5 年間は陳腐化しないパフォーマンスを備えたノート PC を探す必要があった。

ソリューション

- ハードウェア
 - ・ Dell Latitude 12 7000 シリーズ (E7270)
- エンタープライズサポート
 - ・ Dell ProSupport Plus
 - ・ CFI (Custom Factory Integration)

導入効果

- 軽量・コンパクト・高性能のノート PC で、営業現場の機動力・業務生産性の向上に貢献。
- ビデオ再生を含む業務に使用しても、8 時間以上の長時間バッテリー駆動を実現。
- 破損・障害発生時には、Dell ProSupport Plus が 24 時間 365 日オンサイトで対応。
- 今後 5 年間、「陳腐化しない」「廃れない」スペックのノート PC が利用可能に。

音楽配信事業で日本最大のシェアを誇る株式会社 USEN (以下、USEN)。近年では、音楽配信事業で培ってきた技術とノウハウを活かし、システム事業や ICT 事業などにも力を注いでいる。全国に 147 拠点の支店・サービスセンターを持つ同社では、営業部門などの直接部門で働く全社員にノート PC を配布、そのすべてを 5 年サイクルで一斉に新機種にリプレイスする方針をとっている。

2016 年に実施されたリプレイスでは、その 1 年前から準備が進められ、営業部門から寄せられた従来ノート PC に対する不満の声を基に、「軽くて、バッテリーが長持ちする機種」の選定が行われた。結果として選ばれたのが、Intel® Core™ i5 プロセッサを搭載したデルの Dell Latitude 12 7000 シリーズだ。同製品の選定に至るまでには、導入候補のノート PC 上でストリーミングビデオを連続再生させ、バッテリー駆動時間の実力値をチェックするなどの入念なテストが実施されたという。



機動力 アップ

「軽くて、長持ち」の
ノート PC で
社員の機動力をアップ



TCO 削減

デルの充実サポートで
ノート PC のランニング・
コストを大幅低減



“総合ソリューション企業”を目指す

USEN は、1961 年に大阪有線放送社として創業された。現在提供する有線放送のチャンネル数は 500 強に及び、有線放送事業の国内シェアは 8 割以上と圧倒的だ。グローバルの音楽配信サービス市場でも最大級の規模を誇る。

2000 年以降は、インターネットのブロードバンド化や通信衛星放送の普及に合わせて放送インフラを拡大。国内で唯一、ケーブル・衛星・光回線・モバイル通信の 4 種類のインフラで音楽配信サービスを提供している。

一方で、音楽配信事業を通じて培ってきた技術とノウハウを活かし、事業の多角化にも取り組んでいる。その一つが、法人向け ICT ソリューションサービス「USEN GATE 02」を主力とする ICT 事業だ。また、ホテル・病院・ゴルフ場などに向けて業務管理システムや自動精算機を提供する業務用システム事業なども手掛け、軌道に乗せている。

5 年ごとに全社の PC を一斉リプレイス

川田氏が所属するイントラ課は、社内の基幹業務システムや情報系システムの開発・運用、セキュリティ/ネットワークインフラの構築など、USEN の情報システムに関する業務を一手に担っている。USEN の多様な事業を後方から支え、「サービスをどう売るか」など、業務オペレーション作りに深く関与し、そのミッションは「全社の業務生産性を高めること」と、川田氏は言う。

そのミッションの中でも、特に重視されている項目がある。それは主に社内で利用する ICT インフラの調達・運用・保守という業務である。そんなイントラ課にとって非常に重要な業務イベントが 5 年に一度やってくる。それは全社で利用するノート PC の一斉リプレイスだ。

USEN では、一度に大量の PC を導入することによるコスト削減効果や故障・不具合時における保守オペレーションの平準化を目的に、5 年ごとにノート PC の標準機を設定、新旧機を一挙に置き換えるという方針をとっている。言い換えれば、

厳しいテストで導入候補を徹底比較

この機種選定に当たり、イントラ課が何よりも重視したのは、既存のノート PC に対する社員の不満を解消することだ。その点について、イントラ課主任 松浦 誠氏は次のような説明を加える。

「これまで利用してきたノート PC に対しては、営業部門の社員から『重量が重くて持ち運びに苦労する』『バッテリーが長時間持たず、業務に支障を来すことがある』といった声が多く寄せられていました。このようなノート PC では、セールスパーソンの業務生産性を高めることはできないと感じました」（松浦氏）

そこで松浦氏は、次期ノート PC の絶対条件として「軽く、長持ち」を掲げ、それを具体的な要件に落とし込む作業から始めた。それは従来機種の保守契約が切れる 1 年前（2015 年 8 月）のことだ。

「まずは、『軽くて長持ち』という条件を満たすために、重量が 1.5kg を切る薄型ノート PC であること、そして 8 時間以上のバッテリー駆動が可能であることを基本要件として決めました。それを基に製品のカタログスペックを比較し、導入候補を 3 メーカーの製品に絞り込んだのです」（松浦氏）。

イントラ課では、これら 3 候補の貸し出しを各メーカーに依頼、それぞれのスペッ

加えて現在、新たな取り組みとして店舗経営のトータルサポート事業にも乗り出した。この事業では、店舗開業に向けた資金調達・物件選定・事業計画立案に始まり、店舗運営に欠かせない電力・通信回線などのインフラやレジ・ネットワークの導入・敷設、ひいては開業後の集客・販売促進・業務効率化に至るまで、店舗経営のライフサイクル全般を支援するサービスが提供されている。さらに、電力小売自由化に合わせてエネルギー事業に進出するなど、異業種への参入も果たしている。

「当社が目指しているのは、お客様と共に新しい価値を創造する『総合ソリューション企業』です。その目標に向けて、新たなサービスの開拓・強化を加速させ、今まで以上にお客様に密着し、それぞれの課題解決に取り組もうとしているのです」と、USEN イントラ課 課長 川田 秀明氏は話す。

日本全国を網羅する 147 拠点の支店・サービスセンターで働く営業部門の社員をはじめ、企画部門・技術部門などの直接部門の社員が利用するノート PC は、すべて同じ機種・モデルに統一されているわけだ。

この方針の下、2016 年におけるノート PC のリプレイスでは、合計 1,400 台もの新たなノート PC が導入されることになった。

「当社の場合、直接部門で働く全社員に対し、一人 1 台のノート PC を配布して業務に利用してもらっています。なかでも営業部門の社員は、顧客先に持ち運んでプレゼンテーションを行ったり、社外から見積システムを利用したりと、営業活動に不可欠なツールとしてノート PC を活用しています。そのため 2016 年のリプレイスに際しては、更改の 1 年前から準備を進め、導入候補のテストを入念に行うなど、相応の手間と時間をかけて製品を厳選しました」（川田氏）。

クがカタログ値どおりであるかどうかの検証を進めた。そのテストの 1 つはビデオストリーミングを使ったユニークなものだ。

「当社では、商談用の営業ツールとしてビデオストリーミングを利用することがよくあります。そこで YouTube にアップロードしている当社のデモビデオを高画質モードで連続再生し、実際にどれだけのバッテリー駆動が可能であるかを比較・検証したのです」（松浦氏）。

こうしたストレス・テストを繰り返し実施した結果、唯一デル製品だけがカタログ値とほぼ同じバッテリー駆動時間だったという。

「他候補の中には、カタログ値と実測値との間に 1 時間近い差が見られたものもありましたが、デル製品だけはカタログ値とほぼ同じバッテリー駆動時間を示しました」（松浦氏）。

また、ビデオストリーミングを使ったこのテストでは、PC の CPU に与える負荷の影響や発熱などもチェックされ、結果として、デル製品が業務に支障をきたさない状態を保てることが確認できたという。

「性能+充実サポート」でデルを選択

USEN では次期ノート PC の選定に当たり、もう一つ重要な要件を設定した。それはメーカーが提供する保守サポートの品質であり、充実度だ。

「営業部門の社員は常にノート PC を持ち運んでいるので、落としたり、何かにぶついたり、ノート PC を物理的に破損してしまうことが時々あります。ところが従来のノート PC では、メーカーとの保守契約上、無償交換サポートが受けられず、修理の場合も数週間もの時間を要するといった問題がありました。そこで次期ノート PC に関しては、物理的な破損時でも手厚く・すばやく保守サポートが受けられることを要件にしたのです」（川田氏）。

デル製品は、この要件も満たしていた。デルでは、高度な訓練を受けた専門技術者が 24 時間 365 日体制で保守サポートに当たる「Dell ProSupport Plus」を提供している。これを利用すれば、PC の物理的な破損・故障が発生したときに、4 時間または 8 時間以内に派遣された技術者がオンサイトでパーツ交換・修理を実施するサービスが受けられる。

そうしたサポート体制と性能の両面からデル製品を高く評価した USEN は、検証機の後継に当たる Dell Latitude 12 7000 シリーズの導入を決定した。そして、「ノート PC として、向こう 5 年間は陳腐化せず、技術的にも廃れないようなスペック」（川田氏）を検討、結果として、CPU は Intel® Core™ i5、メモリは 8GB、ストレージは SSD、OS は Windows 10 という構成を選択した。

「このスペックを決定したのには、当社のノート PC 上で利用されている各種業務アプリケーションと Windows 10 との互換性を検証しました。当社にとって Windows 10 の導入は初めてだったので、この部分の検証は特に入念に行いました」と松浦氏は振り返る。

現場の生産性を上げ、PC の TCO を下げる

Dell Latitude 12 7000 シリーズの導入を決めた USEN では、2016 年 5 月から実際のリプレイス作業に着手、1 カ月あたり 400 台のペースで移行を進め、従来のノート PC の保守契約が切れる 8 月までに移行作業を完了させた。

「Dell Latitude 12 7000 シリーズの導入で、現場の生産性がどの程度上がったかの数値はまだ得られていません。ただ、ノート PC の可搬性、処理性能、バッテリー駆動時間のすべてが以前よりグンと向上していますので、仕事をこなすスピードも増しているはず。加えて、Windows 10 と SSD を採用した Dell Latitude 12 7000 シリーズは、システムの起動時間が従来の PC に比べて圧倒的に速い。これも業務効率の向上につながっているはず」（川田氏）。実際、現場での Dell Latitude 12 7000 シリーズの評価は上々なようだ。

「利用者からはパフォーマンスと使い勝手のバランスが良い、キーボードが使いやすいなど、評価の声が上がっています。従来の PC に比べて PC の故障率も減ったので、我々インフラ課も『筋肉質の PC』が得られたと喜んでます」（松浦氏）。加えて、Dell ProSupport Plus の効果も大きいという。

「かつては、『万が一、PC が破損・故障したら業務が継続できなくなるのではないか』という心理的ストレスが業務の現場にありました。デル・プロサービスのおかげで、そうした現場のストレスが緩和されましたし、全国 147 拠点で働く当社の社員が、直接デルのサポートに連絡して PC の修理を依頼できる体制を組むこともできました。これにより、全社の PC の運用管理を任されている我々イントラ課の業務負荷も大きく軽減できたのです」と、川田氏は語る。さらに同氏は続ける。

「単純に導入コストだけを比較するとデル製品に勝る製品もありました。ただし、Dell ProSupport Plus を含めた総合評価ではデル製品がやはり上です。

また、Dell ProSupport Plus の効果を算定したところ、5 年間の保守・運用コストが従来の PC に比べて数百万円レベルで下げられることも分かりました。つまり、デル製品の採用で、現場の生産性を上げ、ノート PC の TCO を下げることが可能になったということです」

デスクトップ PC からノート PC へのシフトも検討

今回、合計で 1,400 台のノート PC をリプレイスした USEN だが、このあとにはデスクトップ PC のリプレイスも控えている。

「このリプレイスでもデル製品の採用を考えています。また、2016 年に実施したリプレイスでは、デスクトップ PC からノート PC へ置き換えたものも含まれていますが、デスクトップのリプレイスにおいても可能なかぎりノート PC への移行を進め、全体のモバイル化を推進したいと考えています」（川田氏）。

USEN の標準ノート PC として、直接部門の生産性向上を支える Dell Latitude。その活躍の場はさらなる広がりを見せることになりそうだ。



株式会社 USEN
イントラ課 課長
川田 秀明氏



株式会社 USEN
イントラ課 主任
松浦 誠氏

在宅型社員

働く人の **52%** は
週に数時間から、全労働時間に
至るまで、在宅勤務をしています。



在宅型社員は、フルタイムで、ほとんどを社外で過ごし、
週に 30 時間は自宅やその他の場所で働いています。

デルだからお客様に提供できること

テクノロジーの購入には、IT 部門だけでなく、部門での購買といったケースもあり、HR や総務、ファシリティ部門が大きな影響を及ぼすようになっています。デルは様々な部門からの多様なリクエストにたいして、適切なご提案が可能です。

コラボレーション

この増大しつつある従業員ニーズは、外出先からでもシームレスな接続とコラボレーションの実現と、オフィスサポートへの完全なるアクセスです。

モバイル化

在宅型ワーカーへモバイルデバイスとアクセサリで移動しながら働く自由を提供しましょう。

デルは 1,000 社にも及ぶお客様との対話を通じ、さらにリサーチを行うことで在宅型社員のニーズを把握しています。

コラボレーションのためのコネクティビティ

ユニファイドコミュニケーションとデスクトップビデオ会議でコアオフィスと繋がります。多機能電源とアダプターによって、常に電源が維持された状態を実現します。

自律性と独立性

クラウド、VPN、IT サポートへのアクセスがあれば、完全なオフィス環境を構築できます。

パソコン製品



New Latitude 7280 ノートパソコン

薄型デザイン、最高レベルの生産性。
鮮やかな表示で終日作業可能。

www.dell.com/jp/business/p/latitude-12-7280-laptop/pd

モニター & 周辺機器



Dell Pro ステレオヘッドセット UC350 - Skype for Business

クリアなサウンドに加え、快適さ、便利さを提供。
極めてクリアなサウンドに最適化。



Dell デジタルハイエンドシリーズ U2417HWi 24 インチワイドワイヤレスモニター

2 台のモバイルデバイスから 1 台のモニター画面に
自由なワイヤレス環境で効率的に作業できます。

ソフトウェア & サービス

5 年プロサポートプラス

24 時間 365 日の電話サポート対応、アクシデンタルダメージ（まさかのときに安心保証）、HDD 返却不要サービスにより交換後の故障 HDD も保持できる、充実のパッケージでビジネスをサポート。

セキュリティ

Dell Data Protection ソリューション

包括的な暗号化機能、高度な認証機能、最先端のマルウェア防御機能を備えた Dell Data Protection (DDP) ソリューションで、大切なデータを保護。

Windows 10 への移行

Windows 10 移行コンサルティングおよびデプロイメント

エンドユーザーを取り巻く環境はめまぐるしく変化し、多くの問題が発生しています。最新 OS への移行、セキュリティの確保、新しいワークスタイルを実現するためのインテグレーションの適用など、数多くの課題が存在します。

お悩み…

Windows 10 でアプリケーションが動作するか心配…
Windows 10 を使うために必要なインフラがわからない…
展開や移行作業による管理者の負担が大きい…

デルのクライアント移行サービスで「解決」!

- グローバル対応した互換性調査
- 最適なインフラと PC ライフサイクル管理をご提案
- 熟知したコンサルタントによる設計と移行

はじめの 1 歩から … デルが Windows 10 移行のご支援をいたします! www.dell.com/ja-jp/work/learn/os-migration-consulting



株式会社 SBI BITS

次世代デイトレーディングシステム 「ALPHA8」で個人投資家にプロの環境を提供

SBI BITS は、個人投資家や独立系フィナンシャルアドバイザーに向けた安心・快適・高性能のデイトレーディングシステム「ALPHA8」を、デルのワークステーションと 43 インチ マルチクライアントモニタを基盤に開発した。

ビジネス課題

大口のデイトレーダーの中には、証券会社などでプロップトレーディングやファンドマネジementを担当していたスペシャリストも多く、できれば会社で使っていたのと同等のパフォーマンスを持ったシステムを利用したいと望んでいる。また、最初からデイトレーディングを専業とする個人投資家の中にも、現在使用している PC のスペックに不満を持つ人が少なくない。SBI BITS は、そうしたトレーダーのニーズに応えられるソリューションを提供したいと考えた。

ソリューション

- ハードウェア
- ・タワー型ワークステーション
 - ・Dell Precision Tower 3620 (Professional 構成)
 - ・Dell Precision Tower 5810 (Ultimate 構成)
- ディスプレイ
- ・Dell プロフェッショナルシリーズ P4317Q 43 インチ
 - ・4K マルチクライアントモニタ
- 金融情報ツール
- ・ロイター [EIKON core]

導入効果

- 堅牢な設計が施されたデルのタワー型ワークステーションにより、従来のトレーディング端末と比べて信頼性を 70% 以上向上。
- インテル® Xeon® プロセッサ搭載の Dell Precision Tower 5810 を採用した Ultimate 構成は、一般的なワークステーションと比べてパフォーマンス向上を実現。
- より多くの情報を高精細な大画面に Quad-screen 機能（4 画面表示）で集約。長時間の利用でも眼や肩・首筋の疲れが少ない快適なトレーディング環境を実現。

SBI グループのシステム開発会社である株式会社 SBI BITS（以下、SBI BITS）は、プロフェッショナルの個人投資家や独立系フィナンシャルアドバイザー、中小規模の金融機関向けに、金融情報ツールと端末、トータルサポートを一体化させたデイトレーディングシステム「ALPHA8」を開発、2016 年 10 月 28 日より販売を開始した。

この基盤として採用したのが、Dell Precision Tower 3620 およびインテル® Xeon® プロセッサを搭載した Dell Precision Tower 5810 の両タワー型ワークステーション、そして P4317Q 43 インチ 4K マルチクライアントモニタである。これらデル製品の採用により、個人を対象にしたデイトレーディングシステムとして、かつてない信頼性と性能を実現。機関投資家が利用するトレーディングシステムと変わらない快適な環境を競争力の高いコストで提供している。SBI BITS では今後も ALPHA8 に革新的な新機能を追加し、トレーディングに必要な IT をすべて兼ね備えた総合プラットフォームに発展させていく考えだ。

信頼性 UP

70%

これまでのトレーディング端末との比較で信頼性を 70% 以上向上



プロ仕様

デル製品の採用で
個人投資家の IT 環境を
プロレベルに



最新テクノロジーによる革新的なシステムを 広く業界の発展のために

フィンテックを中心とするシステム開発会社として設立された SBI BITS は、SBI 証券におけるさまざまなシステムのコスト削減、サービスレベルの向上、そしてシステム関連ノウハウの集約などを主なミッションとする。ただし、同社がターゲットとするのは SBI グループのみではない。

「我々は、クラウドやブロックチェーンなどを駆使したイノベーションによって、SBI グループの競争力を高めることに取り組んでいます。そこで開発された優れたテクノロジーを業界全体の発展に活かすことも大切なミッションです」と、代表取締役社長兼 CEO のチャック・チャン氏は言う。例えば、チャン氏が CEO を兼務する SBI ジャパンネクスト証券の PTS（私設取引システム）は、外資系/日系の証券会社 30 社のメンバーを集め、日経 225 構成銘柄の市場シェアで 4~5% を占めるまでに至っている。

「今後も PTS のメンバーは一層の増大が予想されていますが、それらのメンバーを含む SBI グループ外の企業に対し、SBI 証券向けに開発したシステムを広く提供し、

アクティブなデイトレーダーを ターゲットに次世代システムを展開

上記のようなインフラのイノベーションとともに、チャン氏が見据えているのが、個人投資家や独立系フィナンシャルアドバイザーなどに向けたサービスの強化だ。現在、日本国内のオンライン証券にはトータルで約 2,500 口座があり、その約 10% 程度がアクティブにデイトレーディングを行っているプロフェッショナルまたはセミプロの「大口」だ。

「大口のデイトレーダーの中には、証券会社などでプロットレーディングやファンドマネジメントを担当していたスペシャリストも多く、できれば会社で使っていたのと同等のパフォーマンスを持ったシステムを利用したいと望んでいます。また、最初からデイトレーディングを専業としてきた個人投資家の中にも、現在使用して



業界全体のイノベーションを加速させたいと考えています」とチャン氏は強調する。

この構想に基づくビジネスモデルを確立していくうえでは、コストパフォーマンスに優れたシステムの開発・展開が欠かせない。それに取り組む中で結び付きを強めているのが、デルとのパートナーシップである。

「SBI 証券では、主要なデータベースのほとんどを Oracle データベースに向けて最適化された専用機『Oracle Exadata Database Machine』上で運用してきたのですが、現在、それをデルの最新ハードウェアと OSS（オープンソース・ソフトウェア）ベースのミドルウェアを組み合わせたインフラにリプレースすべく移行プロジェクトを推進しています。このインフラ革新によって従来を上回るパフォーマンスを確保しつつ、50% 以上のコスト削減が実現される見通しですが、SBI グループでの移行プロジェクトを完了させたのには、業界他社へも同様のシステムを提供していくつもりです」と、チャン氏は付け加える。

いる PC のスペックに不満を持つ人が少なくありません。彼らのニーズにこたえられるソリューションを提供していきたいのです」と、チャン氏は話す。

このコンセプトに基づき開発されたのが ALPHA8 だ。Dell Precision Tower 3620 をベースとした Professional 構成と、Intel® Xeon® プロセッサー E5-2600 v4 シリーズを搭載した Dell Precision Tower 5810 をベースとした Ultimate 構成の 2 つのモデルが用意されている。

ALPHA8 という戦略製品の基盤として、なぜデルのワークステーションを採用したのか。チャン氏はこう答える。「実を言えば、プロットレーディングなどの機関投資の業務において、グローバルで最も広く使われている標準機がデルのワークステーションです。デル製品はコストパフォーマンスが高く、しかも丈夫で壊れない。当社としても迷うことなく選びました」

また、Professional 構成と Ultimate 構成のいずれのモデルも、Ultra HD 4K の解像度による鮮明な表示を実現する Dell プロフェッショナルシリーズ P4317Q 43 インチ 4K マルチクライアントモニターを組み合わせている。選定の背景にあるのは、トレーディングにおけるエルゴノミクス（人間工学）の追求である。

「すでにこのモニターを使っているトレーダーからは、『より多くの情報を高精細な大画面に Quad-screen 機能（4 画面表示）で集約することができるため、眼に優しく、視線の移動範囲が抑えられて首や肩も痛くならず、長時間の使用でも疲れが少ない』という声をよく聞きます。コンピューティングのパワーアップはもちろん、トレーダー本人の人的なパフォーマンスも最大化するという目標を定めて ALPHA8 を設計しました」と、チャン氏は話す。

おすすめ 4K モニタ



**Dell プロフェッショナルシリーズ
43 インチマルチクライアントモニター - P4317Q**
4 つのモニター。1 台のディスプレイ。
鮮明なテキスト、グラフ、色彩で専門的ユーザーの生産性向上を実現。

『Good Day』のチャンスを逃さない 安心・快適な環境をデルで実現

実際、オンラインでのトレーディングを支えるプラットフォームの信頼性やパフォーマンス、使い勝手の良し悪しは、デイトレーダーにとってまさに“死活問題”だ。

トレーディングには“波”が付きも、何をやっても上手くいく「Good Day」と、逆にあらゆる打ち手が裏目に出てしまう「Bad Day」がある。したがって、Good Day にできるだけ多くの利益を上げることが求められるわけだが、仮にその好調の波に乗りかけていたところでプラットフォームがフリーズしてしまったら、どうなるか——。もちろん、すべての儲けが台無しになり悔やんでも悔やみきれない。

その点、堅牢な設計が施されたデルのタワー型ワークステーションは、従来のトレーディング端末との比較で 70% 以上の信頼性向上を実現する。特に Dell Precision Tower 5810 をベースとする ALPHA8 の Ultimate 構成は、インテルの Core i7 クラスのプロセッサーを搭載した一般的な PC ワークステーションと比べ、パフォーマンスについても向上している。

それだけではない。「デルの保守サポートと連携したトータルサポートを SBI BITS 自身が提供し、あらゆる問い合わせに一元的に対応しています」とチャン氏は強調する。万が一、パーツ交換が必要なトラブルが発生した場合でも迅速に手配が行われるのだ。これにより ALPHA8 のユーザーは常に“安心”と“快適”が担保された環境で、トレーディングに専念することが可能となる。

ちなみに ALPHA8 は、トムソン・ロイターの旗艦情報ツール「EIKON Core」も標準でバンドル、世界中の金融市場をカバーする株価・為替・金利など幅広い資産クラスの情報や分析結果、さらには金融市場に影響を及ぼす国内外のロイター独自の記事（英語・日本語）など豊富なヒストリカル/コンテンツをリアルタイムに提供する。

卓越したパフォーマンスを発揮する ALPHA8 では、こうした EIKON Core による多様な情報のグラフィカル表示も余裕でこなすことができ、トレーダーは日々のストレスから解放される。「一度でも ALPHA8 を使ったトレーダーは、もう以前の環境には戻れなくなるでしょう」とチャン氏は自信を示す。

新たなカラーコンテンツとして トレーディングを自動化するアルゴリズムも開発中

SBI BITS では、ALPHA8 のさらなる拡販に向け、マーケティングの施策も積極的に打っていく。その方向性について、同社のマーケティング&コーポレートコミュニケーション部長のタン・ジョアンナ氏は次のように語る。

「デイトレーダーのために、ワークステーションのみならずトータルサポートや EIKON Core までバンドルしたプラットフォームは、これまで日本にはなかったサービスです。それだけにスタートダッシュが肝心で、Professional 構成および Ultimate 構成の両モデルを大幅な値引き価格で提供する期間限定キャンペーンのほか、SBI 証券をはじめとするグループ会社、代理店の Web サイトを通じた告知を積極的に展開し、お客様の認知を高めていくつもりです」

一方、個人投資家を中心としたデイトレーディングの市場そのものの拡大に目を向けているのが、同社 企業経営部 ビジネスアナリスト兼 ALPHA8 セールスのナラヤナン・ヴィジャヤクリシュナン氏である。同氏はこう意気込む。

「これからも、プロフェッショナル/セミプロから初心者まで、広範な層のお客様の興味・関心を喚起するプロダクト/サービスのラインナップを拡充していきます。デルとの強力なコラボレーションの下、多彩なエコシステムでデイトレーディングのブームを巻き起こし、日本のマーケットを育てていきたい」

そんな中で、新たなカラーコンテンツとして現在開発が進められているのが、トレーディングを自動化するアルゴリズムだ。

「これは、SBI 証券が長年培ってきたトレーディングのノウハウと知見を集大成したものだ。他社のサービスからは得られない画期的な付加価値を提供します」とチャン氏は語気を強め、早ければ 2017 年中にも ALPHA8 へのバンドルを実現するとの計画を示した。

このアルゴリズムについては、AaaS（Algorithm as a Service）の形でクラウドから提供していくことも検討しているという。その視野の先にあるのは、欧米やアジアなどの市場に向けたグローバル展開だ。

特に中国におけるデイトレーディング市場はすでに日本の 10 倍に達しており、なおも拡大を続けている。SBI BITS としても大規模なビジネスの成長が期待できる。その市場でさらに磨きがかかったアルゴリズムは、もちろん日本の顧客にもフィードバックされていき、大きなメリットをもたらすことになりそうだ。



株式会社 SBI BITS
代表取締役社長 兼 CEO
チャック・チャン氏



株式会社 SBI BITS
マーケティング&
コーポレートコミュニケーション部長
タン・ジョアンナ氏



株式会社 SBI BITS
企業経営部
ビジネスアナリスト 兼 ALPHA8 セールス
ナラヤナン・ヴィジャヤクリシュナン氏

クリエイティブ型社員

自身が使うツールやソフトウェアを革新的なデザインか、互換性があるか、性能がパワフルかどうか見極めながら選択しています。



クリエイティブ型社員は、高精度なコンテンツの製作にあたり精巧なテクノロジーとパワーを必要としています。

デルだからお客様に提供できること

デルは1,000社にも及ぶお客様との対話を通じ、さらにリサーチを行うことでクリエイティブ型社員が必要とするソリューションを提供しています。

- 優秀な社員を採用し、働き続けてもらうには、提供するテクノロジーが重要です。1,000社のお客様の働き方を調査したデルだからこそ、それぞれの働き方に適したデバイスとテクノロジーの提供が可能です。

- クリエイティブ型社員はCPU集約的な作業を長時間行うことが多いので、処理能力の高いワークステーションが必要です。スタイリッシュなモバイルワークステーションがおすすめです。

エンドユーザーのニーズを理解するには、どこでどのように、作業が行われているのか把握しましょう。

- デジタル広告、印刷物などの制作現場
- プロダクションや映像スタジオなどの設備
- VRソリューション: デルが支えるVRの世界。
Dell Precision ワークステーションはVRに最適な環境を提供します。

Dell Precision ポートフォリオの特長

- 革新的なデザイン
- 最も薄く、軽く、優れたデザイン
- 強力なパフォーマンス
- プロフェッショナルなプロセッサ、グラフィックス、俊敏で拡張性のあるメモリとストレージオプション
- ワールドクラスなエコシステム
- Dell Canvas, 世界中で #1 のモニターブランド、産業特化型のソフトウェアと周辺機器

パソコン製品



Dell Precision Tower 5810

コンパクトなタワー型でシングルプロセッサ搭載。オプションの825W電源でVR-Ready構成にも対応。

www.dell.com/p/precision-t5810-workstation/pd



New Precision 15 5000 シリーズ (5520)

世界トップクラスの薄型軽量、小型サイズを実現した15インチのモバイルワークステーション。

www.dell.com/p/precision-15-5520-laptop/pd



Dell Canvas

● QHD を備えた 27 インチの水平デジタルキャンパスは、タッチ、高精度のペン、およびトーテムで思いのままに操作できます。

モニター & 周辺機器



Dell Thunderbolt™ Dock TB16-240 W

1台のドッキングステーション
1本のケーブルで、究極のパフォーマンス。



デル デジタルハイエンドシリーズ 32 ウルトラ HD 4K モニター - UP3216Q

理想的な色域と信じられないほどの鮮明さ
色彩にこだわるすべてのプロフェッショナルに理想的な色域。



デル製 Premier ワイヤレスキーボードおよびマウス KM717

エレガントなデザインが特徴
毎日の作業効率や生産性の向上に役立ちます。

ソフトウェア & サービス

5年プロサポートプラン

24時間 365日の電話サポート対応、アクシデンタルダメージ（まさかのときに安心保証）、HDD 返却不要サービスにより交換後の故障HDDも保持できる、充実のパッケージでビジネスをサポート。

セキュリティ

Dell Data Protection ソリューション

包括的な暗号化機能、高度な認証機能、最先端のマルウェア防御機能を備えた Dell Data Protection (DDP) ソリューションで、大切なデータを保護。

Windows 10 への移行

Windows 10 移行コンサルティングおよびデプロイメント

エンドユーザーを取り巻く環境はめまぐるしく変化し、多くの問題が発生しています。最新 OS への移行、セキュリティの確保、新しいワークスタイルを実現するためのインテグレーションの適用など、数多くの課題が存在します。

はじめの1歩から... デルが Windows 10 移行のご支援をいたします! www.dell.com/ja-jp/work/learn/os-migration-consulting

価値あるVR創造企業

ソリッドレイ研究所

株式会社 ソリッドレイ研究所

強力なグラフィックス機能とオンサイト保守サービスで VR ソリューションユーザーに満足と安心を提供

ソリッドレイ研究所が自社の VR ソリューション用システムに Dell Precision と ALIENWARE™ を導入。デルのオンサイト保守サービスを活用して、問題発生時の迅速なサポート態勢を確立。

ビジネス課題

ソリッドレイ研究所ではVR市場の急速な成長に備え、高度なグラフィックス機能を省コストで実現する VR Ready PC の活用を促進。全国ユーザーへの迅速なサポート体制強化にも取り組んでいる。

ソリューション

デルの VR Ready PC である Dell Precision および ALIENWARE は、NVIDIA 社の Quadro を始め高性能なグラフィックスボードに対応して、ヘッドマウントディスプレイ (HMD) などの最新の VR 環境にふさわしいハイパフォーマンスを提供。同時に、デルのオンサイト保守サービスが国内外のユーザーに対して迅速かつ高度な技術サポートを提供し、システムの安定稼働と高い顧客満足を実現する。

導入効果

- 強力なグラフィックス機能で、最新の VR ソリューションに確実に対応
- 価格競争力と収益性を両立させる圧倒的なコストパフォーマンス
- 高品質なパーツと堅牢な構造設計が、故障発生率を最小化
- 用途や要求性能、コストに応じて、2つの機種を使い分け可能
- 迅速な出張サポートで顧客の満足と安心を約束

1987年の設立以来、バーチャルリアリティ (VR) のパイオニアとして、わが国における VR ソリューションの開発シーンをリードしてきた株式会社ソリッドレイ研究所 (以下、ソリッドレイ研究所)。同社では独自に開発した 3D/VR 空間構築・体験ソフトウェア「オメガスペース」を利用した、エンターテインメント向けから産業系ソリューション製品の開発。

また都市開発、建築・住宅関連、医療関連、人間工学などの研究・検証や、その他さまざまな応用分野の VR ソリューションを提供している。さらに最近では、安価で高性能なヘッドマウントディスプレイ (HMD) の登場に着目。これをネットワークで結ぶことで、多人数による同時疑似体験を可能にするなど、新たな VR の可能性を拓く製品開発で大きな注目を集めている。



バーチャルリアリティ（VR）という言葉は、もはや空想やフィクションの世界のものではない。コンピュータの処理機能が飛躍的に向上し、映像や音声を含む大量のデータを PC レベルでも十分に扱えるようになったことが、近年の VR の普及を加速してきた。ソリッドレイ研究所はそうしたわが国における VR の歴史を通じ、約 30 年間にわたって技術の進歩に貢献してきた先駆者だ。

同社のビジネスの特徴は、コンテンツの企画からソフトウェア開発、ハードウェアのセッティングまでをすべて自社で手がけ、VR システムとして提供している点にある。その中でもヒット商品の一つ、「タップトーク」は、人が映像と戯れること

グラフィックス専用機から PC への移行にあたってデルを選択

ソリッドレイ研究所は、1987 年の設立とほぼ同時に独自の立体映像装置の開発に着手。その後も 3D ソフトの開発や、リアルタイム・シミュレーションシステムの受注制作を行うなど、意欲的に技術開発を進めていった。だが当時はまだ、こうした高度なグラフィックス処理やシミュレーションには専用のハードウェアを使う必要があったと、同社 代表取締役社長 神部勝之氏は振り返る。

「そのため 1990 年代には、非常に高価なシリコングラフィックス社製のハードウェアを利用していました。それが 2000 年に入って NVIDIA 社が低価格のグラフィックスボードをリリースしたのをきっかけに、コストの安い PC へ移行しようと考えたのです」。

PC への移行にあたっては、自社でベンダーの情報を収集して問い合わせや比較検討を行い、Dell Precision を選択した。その大きな理由の一つが価格だ。同社 オメガ事業部 専門部長 石田滋氏は、「圧倒的に、コストパフォーマンスに優れていたというのがありました。価格そのものに加え、パーツの組み合わせも豊富に選べるのも魅力でした。当時の最新かつ最高レベルのグラフィックスボードと CPU とを組み合わせて、なおかつコストがリーズナブル、さらにサポートも保証という条件が、すべてそろっているのが Dell Precision だったのです」と語る。

2 機種を使い分けることでパフォーマンスとコストのバランスを最適化

ソリッドレイ研究所が Dell Precision を採用した理由は、もう 1 つある。同社の VR コンテンツには、立体視画像を用いたものが多い。こうした高精度の 3D モデリングを可能にするため、グラフィックスボードには NVIDIA 社の Quadro が多く採用されていた。しかし PC への移行を決めた当時は、Quadro 対応を標榜する PC がほとんどなく、非対応の PC に Quadro のグラフィックスボードだけを別に購入して装着していた。「ところが、そうするとコストが非常に高くなってしまいます。そうしたところにデルがいち早く Quadro シリーズに対応した製品や、インテル® Xeon® プロセッサを使ったデュアル CPU のラインナップなど、他社に先駆けた最新スペックの製品を次々にリリースしてきました」と神部氏は話す。

神部氏によれば、VR ではグラフィックスの更新レートが、現実の動きを忠実に再現できるかどうかの決め手になるという。たとえば作業のシミュレーションソフトならば、ヘッドマウントディスプレイ（HMD）を着けた利用者が右に振り向いたら、目の前の風景も瞬時に右に動かなければ、リアルな体験や感覚は味わえない。それどころか、この映像の遅延が続くと、ユーザは「映像酔い」のような症状に悩まされてしまうのだという。グラフィックスボードや CPU を含めたグラフィックスのパフォーマンスは、まさに VR の生命線であり、常にその時代の最先端かつ最高レベルのデバイスが要求される。こうした理由から同社では長年 Dell Precision のみに絞って採用してきたが、近年は新たに ALIENWARE をラインナップに加え、用途や要求性能に応じて使い分けるようになった。

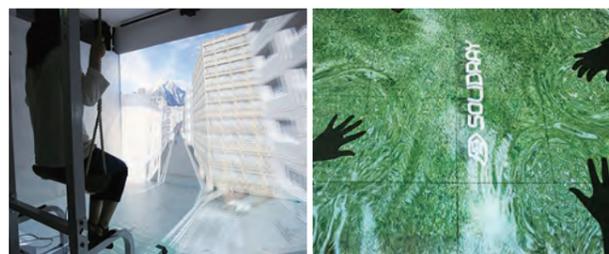
「Dell Precision と NVIDIA Quadro の組み合わせは非常に高性能な分、価格も高価です。一方で、ALIENWARE はコンシューマー用の仕様設定なので、もう少しコストを抑えられるのです。このため要求される性能レベルに合わせて使い分け、価格を最適化できるようになりました」と石田氏は語る。

ができるというエンターテインメント系のソリューションだ。たとえば床や壁に投影された水に足を踏み入れると、あたかも現実の水面のように波紋が広がる疑似体験の面白さが反響を呼び、さまざまな施設から引き合いがあるという。もちろんこうした高度な VR 環境を実現するには、強力なグラフィックス処理能力を備え、安定性に優れたハードウェアが欠かせない。そのために同社では、すでに 1999 年から Dell Precision を導入。最近ではゲーム専用的高性能 PC として設計された ALIENWARE も加わり、ソリューションの特性や要件に合わせた機種の使い分けも可能になっている。

中でも決め手となったのが、Dell Precision に適用されるオンサイトサポートだ。デルの法人向けサポートサービスには、PC 本体のみを保証する「デル オンサイト保守サービス」と、年中無休の電話対応およびエンジニアによる出張修理が保証された「デル プロサポート」とがある。同社が注目したのは後者だった。ソリッドレイ研究所のソリューションのユーザは日本全国に点在しており、とりわけ公共施設での展示やアミューズメント系の製品の割合が多い。人目に触れるため、トラブル時にはできるだけ短時間での復旧が求められる。

「その点、現地に急行して修理対応が可能なプロサポートサービスは、当社の要望を十分に満たすものでした。当時こうしたオンサイト保守サービスを提供しているのはデル以外になく、迷わず採用を決めたのです」と神部氏は語る。

同社のユーザは、国外にも多数存在している。それらすべてに横浜の本社からサポートに向かうのは、ほぼ不可能だ。また PC のトラブルの場合は、その製品を熟知したベンダーの専門家が直接対応することが問題解決のスピードアップにつながる。その点でも、世界中にネットワークを持つデルのプロサポートサービスは利用価値があると判断したのだ。



おすすめ モニタ



Dell デジタルハイエンドシリーズ
34 インチウルトラワイドモニター - U3415W

パノラマ画面、映画のような WQHD 解像度、および高音質のサウンドを備えた世界初の 34 インチ 21:9 曲面モニター。



Dell デジタルハイエンドシリーズ
31.5 インチ 8K モニター - UP3218K

実物に匹敵する表示機能。デルの PremierColor を搭載した受賞歴のある世界初の 31.5 インチ 8K モニター。

VR ソリューションの信頼性向上や緊急対応の取り組みに大きな成果

ソリッドレイ研究所が現在導入している製品は、NVIDIA Quadro K2200 搭載の Dell Precision では 5000 シリーズが主になっている。また ALIENWARE は、GeForce の最上級グラフィックスボード搭載で、HMD での動作が保証された VR Ready を謳う X51 が採用されている。

長年これら 2 種類の VR Ready PC を利用してきて、もっとも大きなメリットは、やはり信頼性や安心感にあると神部氏は改めて評価する。もちろんその筆頭にはオンサイト保守サービスが挙げられるが、それらにも増して、製品そのものの品質や堅牢さはデルならではの点だ。

「当社にはコンピュータの専門家がそろっていて、筐体を開けて中を見ただけで、どんなパーツを使っているか、どういう作りをしているかがわかります。その点、デルは電源一つとっても良い品物を使っています。自社でオンサイト保守サービスを手がけているだけに、最善のサポートは故障しないことだと知っていて、最初から壊れにくい設計を工夫しているのだと感じます。それだけに、デルの品質への信頼度は非常に高いですね」と石田氏は話す。

それでも絶対に故障しないことはありえない。そこで、もし故障が発生した際の修理しやすさも考えられている。中でも便利なのは、ドライバーなどの工具を使わずに部品交換作業が行える点だ。こうしたメンテナンスのアイデアにも、さまざまな国や地域、使用環境のもとでオンサイト保守サービスを提供してきたデルの経験値が盛り込まれているのだ。

将来に向け VR ビジネスの飛躍のカギを握るのは HMD とネットワーク

わが国の VR の歴史と共に歩んできた神部氏は、まさに今こそが VR ビジネスにとって千載一遇のチャンスだと強調する。その原動力となるのが、最近 Oculus 社が発売した高機能で安価なバーチャルリアリティ向け HMD だ。これまでも HMD 自体はいくつかの機種が存在していたが、いずれも視野角が狭い上に重く、装着感も劣る上、非常に高価でほとんど売れていなかった。Oculus 社の HMD は、それらの欠点をすべて解決した上で非常に安価な価格を実現した革新的なデバイスだ。

神部氏がこれを絶好の商機と見る背景には、VR ソリューションが長年抱えてきた、「同時に 1 人しか体験できない」という致命的な制約があった。とりわけ産業系ソリューションでは、せっかく高価で場所をとるシステムを購入しても、1 人しか体験できないというのが導入のネックになっていた。建築会社やメーカーからは、一度に何人も体験できるシステムへの要望が絶えなかったという。だが従来のハードウェアを使用する限り、たとえば 2 人の人間が別々の方向を向いた場合、1 つの装置上に 2 つの異なる VR 映像を生成するのは物理的に不可能だ。

「しかし各人が 1 台ずつ HMD を装着して、同時にそれらをネットワークでつなげば、複数の人が同時に同じ VR 環境を、しかも個々に体験できるようになります。その意味で、この千載一遇のチャンスをつかむカギは、ネットワークにこそあると確信しています」と神部氏は話す。



株式会社 ソリッドレイ研究所
代表取締役社長
日本 VR 学会 理事
神部 勝之 氏



株式会社 ソリッドレイ研究所
オメガ事業部 専門部長
石田 滋 氏

一方、石田氏はデル製品を利用してきたメリットとして、優れたリカバリツールや診断ツールが提供されているため、トラブル時の対応ワークフローが作りやすくなった点を挙げる。以前は故障などが発生すると、自社の担当者が状況を確認した上で、とりあえず必要な手当を行うという、いわば「場当たり」的な対応になりがちだった。それが今ではデルのオンサイト保守サービスという保証があり、なおかつデル純正のリカバリツールや診断ツールで、どのような状況でも同じ手順で確実に対応できるように改善されている。

「トラブルシューティングの手順を、体系立ててマニュアル化できたこと。なおかつ属人的な対応から、標準化された組織としての対応に移行できたのは大きな成果です」と石田氏は語る。

こうしたハードウェアの信頼性確保や緊急対応への取り組みが実を結び、同社のソリューションは順調に市場を拡大。上で紹介した「タップトーク」は、すでに全国 40 か所以上のショッピングモールや博物館などに納入されている。こうしたエンターテインメント系製品の一つでは、産業系ソリューションに大きな実績を持っているのも同社の特徴だ。その一つ、「労働災害疑似体験 VR システム～セーフマスター」は、製造現場で起こりやすい「挟まれ、巻き込まれ」による事故を疑似体験できるというもので、すでに多くのメーカーの工場に導入され、安全教育に活用されている。もちろんこれらの産業系ソリューションには、すべて Dell Precision が使用されている。

この新たな潮流に向け同社では、すでにネットワーク経由で多人数が同時にコントロール可能な VR 空間共有システムの開発を完了。映画館など新しい分野のユーザからの問い合わせが来ているという。またこうした大規模 VR では、HMD 1 台ごとに強力な処理パワーを備えた PC が必要になる。具体的には、ネットワーク機能、とりわけマルチキャスト機能の強化が急務だ。VR 環境のネットワーク化が進めば、近い将来、1,000 人、1 万人が同時に VR 体験を行えるようなソリューションへのニーズが次々に出てくるのは間違いない。そうした時に、ソフトとハード両面で同社のビジネスをサポートする体制づくりが、デルにも求められると神部氏は示唆する。こうした専門家の声に応えるべく、すでにデルでも VR Ready PC の環境整備を進めている。中でも HMD では Oculus Rift および HTC Vive の 2 つのデバイスについて、Dell Precision、ALIENWARE が共に認定取得済みだ。

「もちろん HMD やネットワーク以外にも、まだまだ VR の可能性は広がっていくでしょう。具体的にどのような方向かというのは未知数ですが、思わぬところにこそ使い道があると私は考えています。開発や教育、お客様へのプレゼンテーションを始め、VR を手がけてみようと思う人や企業が、それぞれにアイデアを試してみることで、新しい分野やこれまでになかった効果を発揮できるようになると思います」と未来を語る神部氏。VR の世界をリードするソリッドレイ研究所の歩みを、デルの VR Ready PC が加速していきます。

エンジニア型社員

自身の使うツールやソフトウェアを自分自身で選択することができます。



エンジニア型社員は、ミッションクリティカルな信頼性を持つ

データ集中型のアプリケーションを使用するためにパワフルなデバイスを必要としています。

デルだからお客様に提供できること

デルは 1,000 社にも及ぶお客様との対話を通じ、さらにリサーチを行うことでエンジニア型社員が必要とするソリューションを提供しています。

- 優秀な社員を採用し、働き続けてもらうには、提供するテクノロジーが重要です。1,000 社のお客様の働き方を調査したデルだからこそ、それぞれの働き方に適したデバイスとテクノロジーの提供が可能です。

- 高度に複雑なプロジェクトに取り組むことが日常茶飯事であるエンジニアには、優れた性能を発揮するワークステーションが必要です。エンジニアリングの仕事には、レンダリング、シミュレーション、解析などの CPU 集約的な作業がいつまわらため、業界最速レベルの CPU とメモリが不可欠です。

エンドユーザーのニーズを理解するには、どこでどのように、作業が行われているのか把握しましょう。

- リモート、またはオンサイトでのワークステーションへのアクセス
- VR ソリューション: デルが支える VR の世界。
Dell Precision ワークステーションは VR に最適な環境を提供します。

Dell Precision ポートフォリオの特長

- 革新的なデザイン
- 最も薄く、軽く、優れたデザイン
- 強力なパフォーマンス
- プロフェッショナルなプロセッサ、グラフィックス、俊敏で拡張性のあるメモリとストレージオプション
- ワールドクラスなエコシステム
- Dell Canvas, 世界中で #1 のモニターブランド、産業特化型のソフトウェアと周辺機器



ヤマハ発動機 株式会社

CAD 環境の標準機に採用 省スペース性とコスト削減で高い効果

毎年、数百台規模でワークステーションを更改するヤマハ発動機は、CAD 環境向けの標準機の 1 つとして Dell Precision Tower 3620 を採用。性能と省スペース性がエンジニアから高く評価されている。

ビジネス課題

CAD 環境で使用するワークステーションを 5 年周期で計画的に更改しているヤマハ発動機では、1 年に 1 回、その年に更改対象となる CAD 環境向けに会社標準のワークステーションを設定。その中からエンジニアが作業しやすいマシンを自由に選べるようにしている。2016 年度も、厳しい性能・機能要件を満たすとともに、コストパフォーマンスに優れたワークステーションを探していた。

ソリューション

クライアントソリューション
・ Dell Precision タワー 3000 シリーズ Tower 3620

エンタープライズサポート
・ デル・プロサポート

導入効果

- 同じ標準機に採用されている他社製品に比較し、筐体サイズが約 8.6% 小型化し、省スペース性を実現。
- 同じ標準機に採用されている他社製品より、10% 以上のコスト削減効果を実現。
- ハードウェアのトラブル発生時には、デルが 24 時間 365 日の電話サポートとオンサイトサポートで迅速に対応。
- 標準的な Dell Precision Tower 3620 のほかに、高性能用途向けの Dell Precision Tower 7910、モバイル用途向けの Dell Precision 15 7000 シリーズ (7510) など幅広い製品を採用。



小型化

8.6%

従来製品との比較で
筐体サイズが 8.6% 小型化し
省スペース性を実現



10% 以上削減

従来製品と比較し
導入コストを 10% 以上削減



パソコン製品



Precision タワー 7000 シリーズ (7910)
拡張性を重視したパワフルなタワー型ワークステーション。デュアルプロセッサによる最高のパフォーマンス。

www.dell.com/p/precision-t7910-workstation/pd

モニター & 周辺機器



**デル デジタルハイエンドシリーズ
32 ウルトラ HD 4K モニター - UP3216Q**
理想的な色域と信じられないほどの鮮明な色彩にこだわらすべてのプロフェッショナルに理想的な色域。



**x-rite i1 Display Pro キャリブレータ
KHG1035**
ディスプレイとプロジェクター高精度なキャリブレーションが行えるプロフェッショナル仕様。

ソフトウェア & サービス

5 年プロサポートプラス

24 時間 365 日の電話サポート対応、アクシデンタルダメージ (まさかのときに安心保証)、HDD 返却不要サービスにより交換後の故障 HDD も保持できる、充実のパッケージでビジネスをサポート。

セキュリティ

Dell Data Protection ソリューション

包括的な暗号化機能、高度な認証機能、最先端のマルウェア防御機能を備えた Dell Data Protection (DDP) ソリューションで、大切なデータを保護。

Windows 10 への移行

Windows 10 移行コンサルティングおよびデプロイメント

エンドユーザーを取り巻く環境はめまぐるしく変化し、多くの問題が発生しています。最新 OS への移行、セキュリティの確保、新しいワークスタイルを実現するためのインテグレーションの適用など、数多くの課題が存在します。

お悩み…

Windows 10 でアプリケーションが動作するか心配…
Windows 10 を使うために必要なインフラがわからない…
展開や移行作業による管理者の負担が大きい…



デルのクライアント移行サービスで「解決」!

- グローバル対応した互換性調査
- 最適なインフラと PC ライフサイクル管理をご提案
- 熟知したコンサルタントによる設計と移行

はじめの 1 歩から … デルが Windows 10 移行のご支援をいたします! www.dell.com/ja-jp/work/learn/os-migration-consulting

“感動創造企業”を 企業目的に掲げるヤマハ発動機

ヤマハ発動機は、ピアノ生産で世界トップシェアを誇る日本楽器製造株式会社（現・ヤマハ株式会社）が戦時中に生産していた航空機用プロペラの製造設備を活用し、オートバイの製造に着手したのを起源とする企業である。1955年に日本楽器製造から分離・独立して以来、オートバイを代表とする乗り物を中心としたさまざまな分野の製品を開発・製造・販売している。

中でも自動車および自動車エンジンの開発・製造には定評があり、“伝説の国産スポーツカー”と言われる「トヨタ 2000GT」（1967年～1970年製造）はトヨタ自動車とヤマハ発動機が共同開発し、ヤマハ発動機が製造を担当した歴史に残る名車である。現在はトヨタ/レクサスなどの国産自動車メーカーをはじめ、欧米自動車メーカーにも高付加価値エンジンを供給している。このほか、オートバイや自動車

内製 CAD ソフトウェアの稼働に 最適なワークステーションを選定

製造業企業にとって製品設計は非常に重要な業務プロセスであり、設計エンジニアが利用するCAD環境は事業の根幹に関わるものである。それはヤマハ発動機にとっても同様だが、同社ではCADをはじめとするエンジニアリング系システムを特に重視している。それを如実に示しているのが“2つの情報システム部門”の存在である。

「ヤマハ発動機では、業務系システムを担当する『プロセス・IT部』と、製品開発などのエンジニアリング系システムを担当する『デジタルエンジニアリング部』という2つの情報システム部門に分かれています。もともとは1つの部門でしたが、製品開発を支えるエンジニアリング系システムの企画・開発・運用を強化するため、技術本部にデジタルエンジニアリング部が設置されました」（大上氏）

そのデジタルエンジニアリング部の中でCADとPDM（Product Data Management = 製品情報管理）を担当しているのが、大上氏がリーダーを務めるCAD/PDMグループだ。

「CAD/PDMグループは主に、設計エンジニアが日常的に利用しているヤマハ発動

Dell Precision を選ぶ 設計エンジニアが急増

新しいワークステーションの標準機を選定する作業は、年に1回実施されるという。その標準機としてDell Precisionは毎年選ばれている。

「ヤマハ発動機の標準機として最初に選定したデル製品は、2001年のDell Precision 330ですから、デルとはすでに15年以上のお付き合いになります。そもそもDell Precisionを導入することになったのは、内製CADソフトウェアの動作要件を満たしていたからでした」（小林氏）

小林氏によると、内製CADソフトウェアはヤマハ発動機の設計業務を最適化するために、さまざまな細かいカスタマイズが施されている。それゆえに稼働するハードウェアへの要求事項も多いのだという。

「内製CADソフトウェアの要求事項を満たしているかを調査するために、各社の

で培ったエンジン技術を応用し、船外機・ボートやウォータースポーツ（水上バイク）などのマリンスポーツ用品、スノーモビルや四輪バギー、さらには電動アシスト自転車、電動車いすに至るまで、さまざまな乗り物を製品化している。

「ヤマハ発動機は、世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供する“感動創造企業”を企業目的に掲げ、どちらかと言えば嗜好性の高い製品を提供してきました。近年はそうした製品に加え、産業用製造装置、産業用ロボットといった製造業の生産現場を支える製品にも力を入れ始めています」と、ヤマハ発動機の技術本部 技術企画統括部 デジタルエンジニアリング部 CAD/PDM グループ グループリーダーの大上智之氏は語る。

機独自の2D/3D CADソフトウェア「ESPRIMO」の開発・保守・運用を、情報子会社のヤマハモーターソリューションと協力しながら行っています」と、ヤマハ発動機 技術本部 技術企画統括部 デジタルエンジニアリング部 CAD/PDM グループ 主事の外山幸徳氏は説明する。

CADソフトウェアの開発・保守・運用とともに、デジタルエンジニアリング部 CAD/PDMグループにはもう1つ重要なミッションがある。それは、設計エンジニアが利用するワークステーションの調達・導入・サポート業務だ。

「ワークステーションの導入は、ヤマハモーターソリューションが主導して実施しています。独自のCADソフトウェアの稼働環境としてふさわしい複数の製品を選定し、設計エンジニアの誰でも同じ環境で設計業務に取り組みるように『標準機』という形でヤマハ発動機に提案しています。ワークステーションは5年ごとにリプレースするので、その年に更新時期を迎える数百台が対象になります。実際に利用する機種を選定は、設計エンジニアに委ねられています」と、ヤマハモーターソリューション エンジニアリングソリューション事業部 エンジニアリング部 エンジニアリングサポートグループの小林弘明氏は説明する。

ワークステーションの評価・検証は入念に行っています。メーカーから評価機を借り、中に内製CADソフトウェアをインストールして問題がないものを標準機として選定しています。デルのワークステーションは、稼働要件を満たすとともにパフォーマンスも優れているということで、毎年採用してきました」（外山氏）

ヤマハ発動機デジタルエンジニアリング部が管理するワークステーションの台数は、グループ全体で3,000台強、ヤマハ発動機本体では約2,500台に及ぶ。このうち更新対象になるのは、毎年約500台前後だ。

「ヤマハ発動機の約2,500台のうち、現在は約600台程度がDell Precision ワークステーションです。もともとは圧倒的に他社製のワークステーションが多かったのですが、ここ1～2年で状況が変わり、今ではDell Precision を選ぶ設計エンジニアの割合が多くなっています」（外山氏）

低コストと省スペース性を理由に Dell Precision が選ばれる

ヤマハ発動機は2016年度、デルの最新ワークステーションであるDell Precision Tower 3620を標準機の1つに選定。「2016年度は更改対象のワークステーション台数がやや少なかったのですが、他社製品に比べて倍以上の数のDell Precision が導入されました」と大上氏は説明する。

なぜDell Precision が設計エンジニアに選ばれるのか。小林氏は「今のワークステーションはコモディティ化されている点も多く、性能を比較しても大きな差はありません。そうなるワークステーションの導入コストや筐体の大きさなどが特に比較ポイントになります。Dell Precision は、他社製品に比べて安価であるとともにコンパクトな筐体が採用されており、これらがDell Precision が選ばれる理由になっていると考えられます」と分析する。

ちなみに、ヤマハ発動機とヤマハモーターソリューションの試算によると、Dell Precision Tower 3620は他社製品に比較して10%以上のコスト削減効果が得られたという。またDell Precision Tower 3620の筐体サイズは、従来の他社製品から約8.6%小型化し、省スペース性も実現している。

「設計エンジニアは机の上に2台の大型ディスプレイを置いて作業しているので、省スペースのワークステーションが選ばれることが多いですね。また、Precision のデザイン形状は持ち運び際、手にかけてやすく、ワークステーションの搬出入や設置、オフィスのレイアウト変更にとっても便利だと好評です」（外山氏）

24時間365日の電話とオンサイト による迅速なサポートを高く評価

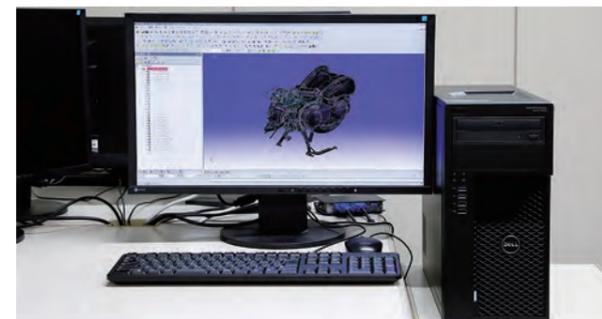
低コストや省スペース性といったメリットから、設計エンジニアに多く選ばれるDell Precision だが、ワークステーションの保守・サポートを担当するデジタルエンジニアリング部は、デルと他社との差を感じるという。

「台数が多いためどうしてもトラブルは発生します。そうした事態が発生したときに、原因がハードウェアなのかソフトウェアなのかを切り分けれます。内製CADソフトウェアに問題がある場合は社内ですべて対応しますが、ハードウェアに問題がある場合は24時間365日の電話またはオンサイトのサポートでデルに迅速に対応してもらっています。デルの営業・サポート体制については申し分なく対応も素早いので、私たちもすいぶん助かっています」（大上氏）なお、今回は最も導入台数が多いDell Precision Tower 3620を中心に紹介したが、ヤマハ発動機はDell Precision Tower 3620のほかにもDell Precision Tower 7910とDell Precision 15 7000シリーズ（7510）を標準機として設定している。

「デュアルCPUを搭載するDell Precision Tower 7910は、よりパワーが要求される高負荷・大容量処理が必要になる特定の解析ソフトや画像処理ソフトを使いたいというエンジニア向けに用意しています。一方、モバイルワークステーションのDell Precision 15 7000シリーズ（7510）は、設計データを持ち運んで会議やプレゼンテーションに利用する機会が多いエンジニア、あるいはマネージャーなどに選ばれています」（小林氏）今後の予定としてヤマハ発動機では、OSのバージョンアップを計画している。

「現在はWindows 7を利用していますが、いよいよサポート終了が迫っており、Windows 10への移行を検討しています。ヤマハ発動機の開発製品の広がりに伴い、自社内製CADソフトウェアだけでなく、既製のCADパッケージソフトウェア製品を同時に動かさなければならないケースも想定しています。そうした作業を行う際の評価・検証についても、ぜひデルの力を借りたいと考えています」（大上氏）

日本を代表するモノづくり企業の一社であるヤマハ発動機では、今後もこれらのワークステーションを活用しながら、市場をリードするさまざまな製品の開発にチャレンジしていく構えだ。



ヤマハ発動機 株式会社
技術本部 技術企画統括部
デジタルエンジニアリング部
CAD/PDM グループ
グループリーダー
大上 智之 氏



ヤマハ発動機 株式会社
技術本部 技術企画統括部
デジタルエンジニアリング部
CAD/PDM グループ
主事
外山 幸徳 氏



ヤマハモーターソリューション 株式会社
エンジニアリングソリューション事業部
エンジニアリング部
エンジニアリングサポートグループ
小林弘明氏

現場作業型社員

現場作業型で働く社員には過酷な状況下でも働くことのできる耐久性の高いテクノロジーが必要です。



現場作業型社員は、過酷な状況下でも働くことのできる耐久性の高いテクノロジーが必要です。

デルだからお客様に提供できること

デルは 1,000 社にも及ぶお客様との対話を通じ、さらにリサーチを行うことで現場作業型社員が必要とするソリューションを提供しています。

- 優秀な社員を採用し、働き続けてもらうには、提供するテクノロジーが重要です。1,000 社のお客様の働き方を調査したデルだからこそ、それぞれの働き方に適したデバイスとテクノロジーの提供が可能です。

- 現場作業型社員の PC は手荒い扱いを受けることがよくあります。ぬかるみで踏みつけられたり、8 月の炎天下の日に黒いトラックの中に長時間置かれたりしても、Dell Rugged デバイスなら問題ありません。ウルトラポリマー素材と圧縮ガスケット、熱管理システムを組み合わせた独自の設計のため、真に優れたパフォーマンスが実現します。そのため、凍り付いた手袋でタッチスクリーンをスワイプしたり、まぶしい太陽光の下でもはっきりと画面の文字を読むことが可能です。

エンドユーザーのニーズを理解するには、どこでどのように、作業が行われているのか把握しましょう。

- ミッションクリティカル
- セキュリティ ROI
- プロジェクト保護

現場作業員

クリティカルなミッションは、過酷な環境下においても高い耐久性と信頼性をもちコンピューター処理能力を必要としています。



水野産業 株式会社

堅牢なタブレットで ペーパーレス化と作業効率の向上を実現

水野産業では、フォークリフト専用端末ではなく耐衝撃性に優れた Windows タブレットを採用することで、柔軟なアプリ開発を行い、業務に最適なシステムを構築し、作業効率の向上を実現した。

ビジネス課題

倉庫での集品作業を効率化し、ペーパーレス化を行いたいと考えていた水野産業株式会社では、利用するデバイスとして、フォークリフト専用の車載端末、ハンディターミナル、iPad、格安の Android タブレットなどのさまざまな選択肢を検討していた。しかし、フォークリフトの振動などに耐えられるかどうかが課題だった。

ソリューション

クライアントソリューション
・ Dell Latitude 12 Rugged Tablet



導入効果

- フォークリフトの作業員が定期的に集品リストを取りに来る手間を省き、作業効率が向上。
- 集品リストを紙に出力して仕分けする手間も省き、ペーパーレス化を実現。
- Windows 環境で、業務に合わせたアプリを柔軟に自社開発できる。
- 専用端末の組み込み OS とは異なり、Windows の開発環境を使い、現場の要望に合わせた改修・改善が行える。

水野産業株式会社（以下、水野産業）は、外食産業を中心とした使い捨て容器や包材を日本全国で販売。紙コップ、種々雑多な包装資材類、割り箸、グラス、スプーン、クリーンキャップ、洗剤など、外食産業が利用する多種多様な消耗品を取り扱っていることが同社の特徴の 1 つだ。オリジナル商品の開発にも力が入れられており、全国的な物流システムを構築することで迅速で効率的な商品提供を行っている。また、介護業に向けた商品提供・商品開発にも力を入れており、環境活動として中国の緑化推進のための植林事業も行っている。

物流の現場でのペーパーレス化を目指した水野産業では、フォークリフトにタブレット端末を取り付けて集品作業を効率的に行えるようなシステムを検討。フォークリフトの振動に耐えうるタブレット製品を探していた中で、Dell Latitude 12 Rugged タブレットの堅牢性の高さに注目した。

フォークリフトの
作業員の手間を省き
作業効率が
向上



紙出力による集品
リストの仕分けする
手間を省き
ペーパーレス化
を実現



パソコン製品



Latitude 12 Rugged Extreme
コンバーチブルノートパソコン
過酷な環境でも対応できるパフォーマンスとセキュリティを備えた、最新の 12 インチ 2-in-1 ノートパソコン。

www.dell.com/jp/business/p/latitude-12-7214-2-in-1-laptop/pd

モニター & 周辺機器



デル プロフェッショナル シリーズ
24 インチワイドモニター - P2417H
快適さと利便性を損なうことなく、オフィスの生産性をまったく新しいレベルへ向上させます。



Latitude 12/14 Rugged Extreme 用
デル製ショルダーストラップ - 340-AKVM
柔軟に使える軽量のデル製ショルダーストラップ
どこにでも簡単に持ち運べます。



Dell Rugged デスク・ドッキング・ステーション
452-BCLQ
Latitude Rugged ノートブックの全シリーズで
使い、さまざまな作業環境を簡単に移動できます。

ソフトウェア & サービス

5 年プロサポートプラン

24 時間 365 日の電話サポート対応、アクシデンタルダメージ（まさかのときに安心保証）、HDD 返却不要サービスにより交換後の故障 HDD も保持できる、充実のパッケージでビジネスをサポート。

セキュリティ

Dell Data Protection ソリューション

包括的な暗号化機能、高度な認証機能、最先端のマルウェア防御機能を備えた Dell Data Protection (DDP) ソリューションで、大切なデータを保護。

Windows 10 への移行

Windows 10 移行コンサルティングおよびデプロイメント

エンドユーザーを取り巻く環境はめまぐるしく変化し、多くの問題が発生しています。最新 OS への移行、セキュリティの確保、新しいワークスタイルを実現するためのインテグレーションの適用など、数多くの課題が存在します。

はじめの 1 歩から … デルが Windows 10 移行のご支援をいたします! www.dell.com/ja-jp/work/learn/os-migration-consulting

倉庫ごとの業務に対応するために 自社開発を行う

水野産業は、関東、千葉、神奈川の3つの物流センターを中心に全国の営業所にも倉庫を構え、商品を迅速に届けられる体制を整えている。同社の情報システム課は、社員がストレスなく効率的に業務が行えるように、システムを自社開発することをモットーにしていると、水野産業株式会社 情報システム課 課長の田中敦弥氏は話す。「たとえば、物流システムを構築しようとしても、倉庫の大きさなどによって作業の流れは大きく異なります。我々には3つの物流センターがあり、各営業所にも倉庫がありますが、それぞれ異なるシステムにする必要があるため、外部に委託して開発してもらうことは難しくなります。お客様のご要望やシステムを使う現場の要望に迅速かつ柔軟に対応するためにも、自社開発が必要だと考えています」。

また、自社開発することによって、業務の見直しを行えるなど、さまざまなメリットが生まれると田中氏は話す。「よりよいシステムを構築するためには、現場の意

見をしっかりと聞く必要があります。1つのチームとして現場とともに話し合いながらシステムを自社開発することによって、業務の流れを見直して、より効率的な流れにすることができます。現場と一緒に作ることで、しっかりとシステムを使ってくれるようになり、建設的な改善案や要望も出てくるようになります」。

水野産業では、社内の標準 PC をデル製にするなど、多くの IT 機器でデル製品を活用している。「以前は、他社の製品を使っていたのですが、サポートに物足りなさを感じていました。価格面で優位と考えてデル製品を使い出したのですが、サポートや保守の対応が非常によくて満足しています。他社では、ユーザ登録が必須となっていますが、多くの機器を使っている登録の作業だけで大きな労力がかかっています。デルは、ユーザ登録の必要がないことも非常に助かっています。5年間のサポートを選ぶことができることも、デル製品を使っている理由の1つです」と田中氏は語る。

フォークリフト端末やさまざまな タブレットから Rugged を選択

水野産業では、以前から物流システムでタブレットを使えないかと検討していた。倉庫の作業では、集品リストを紙で出力してフォークリフトの作業員に渡して作業を行うが、紙の出力の手間を省き、ペーパーレス化を図ろうと考えていたのだ。また、一般的な販売店ですべての商品にバーコードが付けられているが、多くの商品を扱う水野産業では、6割程度の商品にしかバーコードが付けられていないという事情もあった。「ハンディターミナルを使った物流システムを構築することも検討していましたが、ハンディターミナルの画面では小さすぎて情報量が足りないことが課題となりました。バーコードがない商品を集品・検品するためには、商品の情報をできるだけ画面に表示させて正しい商品かどうかを確認する必要があります」と田中氏。

フォークリフトには、各社から専用の車載端末が提供されているが、コストが高いため導入しづかった。また、他社のフォークリフトには付けられないという制限が付けられている場合があったり、専門の業者に取り付けを依頼する必要があり、取り外しができないことも問題だった。やはり、タブレットを導入する方法が最適ではないかと田中氏は判断したという。

さまざまなタブレットを検討したが、iPad などの一般的なタブレットではフォークリフトの振動に耐えられないと判断。また、格安の Android タブレットで壊れたら入れ替えるほうがコスト的に安くなるのではないかと検討したが、故障時のメンテナンスの手間を考えれば、現実的ではないと判断された。「やはり、最も心配したのはフォークリフトの振動で、これに耐えられるタブレットでなければならないと考えました。また、倉庫には風も入ってきてほこりなどもあるので、防塵性能も必要で、夏場の暑さにも耐えられる製品を求めています」と田中氏は話す。

さまざまな選択肢の中から、堅牢性を考えてパナソニック製の TOUGHPAD に決まらせたと話すと田中氏は、デルに堅牢性の高いタブレットがないかを問い合わせ、初めて Latitude 12 Rugged タブレットの存在を知ったという。「TOUGHPAD と比較しても、十分なスペックと堅牢性があり、価格面でも優位であると判断しました。これまでのデルのサポート対応のよさや、5年サポートを選べることも決め手になりました」と田中氏。



アプリを自社開発して 作業効率の向上も目指す

水野産業では、今回 16 台の Latitude 12 Rugged タブレットを導入し、13 台のフォークリフトに取り付け、1 台を開発用に、もう 1 台を予備として活用している。残り 1 台は、近日中に導入される新しいフォークリフト用だ。Latitude 12 Rugged タブレットを採用することによって、フォークリフト端末の半分くらいのコストで導入できたと田中氏は説明する。

タブレット側では、水野産業が自社開発したアプリが利用されている。「ハンディターミナルやフォークリフト端末とは異なり、Windows で開発が行えるので、柔軟に開発できたことがよかったですね。現場の意見を聞いて改善や修正を行う場合にも、素早く対応できます。これからは、定期的に現場の意見を聞いて、よりよいアプリになるように改善していきたいですね」と関東物流センター 基幹システム課の清水悠輔氏は話す。アプリの開発では、情報量と見やすさのバランスに最も気を遣ったと清水氏は話し、文字の大きさにこだわったと説明する。また、タブレットの画面が大きいほうが表示できる情報量が多くなるが、画面が大きすぎると視界を遮ってしまうため、12 インチくらいがよいと評価していることも明かしてくれた。

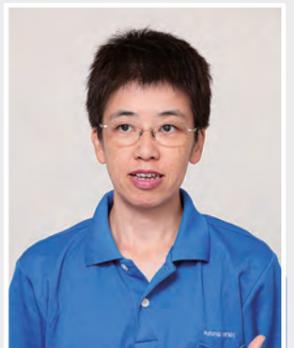
水野産業では、タブレットの導入によって、集品リストを紙に出力して仕分けする手間やフォークリフトの作業員が定期的に集品リストを取りに来る手間などがかからなくなり、ペーパーレスとともに作業効率が向上するのではないかと想定し、人によって作業効率に差が出なくなることも期待している。

常に情報収集を行って 作業しやすい環境を提供する

田中氏は、常に現場の声を聞いて作業しやすい環境を提供することが重要だと説明する。「今回はタブレットでしたが、将来的にウェアラブル端末などを使う可能性も考えて、どのような製品が出てくるのかに注目しています。何を取り入れれば現場が作業しやすくなるのか、常に情報収集して考えていくことが我々の役割だと思っています。自分たちだけで情報収集するには限界があるので、デルのようなメーカーには今後も情報提供や提案を行ってほしいですね」と田中氏は話す。

水野産業では、今回の関東物流センターへのタブレット導入を皮切りに、残りの 2 つの物流センターや全国の営業所の倉庫にもタブレット導入を進めていきたいと考えている。「今後は、タブレットを活用して、どれくらいの時間をかけて作業をしているのか、どれくらいのコストがかかっているのかを見える化して、物流経費をしっかりと把握し、業務改善とコスト削減につなげたいですね」と最後に田中氏は話してくれた。

水野産業では、機能性の高い包材や消耗品を今後も迅速かつ柔軟に外食産業に抵抗し続け、物流、営業、商品開発の業務改善を行うことでさらなるサービスの強化を行っていく。



水野産業 株式会社
情報システム課 課長
田中 敦弥 氏



水野産業 株式会社
関東物流センター
基幹システム課
清水 悠輔 氏